

まちかどトーク（伏木地区）議事要旨

日時：令和8年3月15日（日）13:30～15:40

場所：伏木コミュニティセンター

参加者：72人

1 市長あいさつ

2 市政に関する説明

「災害に備えよう！～わがまちのリスクの理解・日頃の備え～」について危機管理課から説明の後、質疑応答

参加者

隣の空き家が倒壊し、その瓦礫が自宅の敷地内に流入して積み上がっている。建築政策課に相談したが、空き家所有者の責任であり行政では対応できないと回答があったため、納得できず市に行政不服申立書を郵送した。

市長

現場の状況は確認しており、承知している。この場での即答は難しいが、担当部署と協議したい。

空き家対策として、固定資産税の納税通知書に空き家の売却等を勧めるチラシを同封する取組を行っている。

参加者

能登半島地震で被災し更地となった石坂自治会の公民館再建についてお願いしたい。公民館は自治会活動に不可欠な施設だが、資材高騰で再建費用が非常に高額になっている。自治会内の被災状況や収入減を考えると、銀行からの借り入れや寄付集めは困難な状況である。曳山特別会計から費用を充てたが、まだ不足している。

現在の市の助成金は、基準価格の10分の5という規定だが、非常に厳しい金額である。この助成割合を10分の8程度に引き上げていただけないか。被災した石坂自治会と中道自治会の窮状を汲み取り、行政のさらなる支援をお願いしたい。

市長

この場で約束できないが、本日お話を聞いて良かった。市として何ができるか、例えば被災地に限定した特例措置が可能かなど、公平性の観点や財源の理屈も含めて確認したい。簡単な問題ではないかもしれないが、持ち帰り検討し、何らかの返答をさせていただきたい。

参加者

令和6年能登半島地震の際、高台にある勝興寺に避難しようとしたが開けてもらえなかったと聞いている。市内の企業や団体と災害時の協力について提携しているのか。もし提携があるのであれば、その情報を開示してほしい。

危機管理課

伏木地区では公共施設などが指定避難所になっており、避難者の受け入れ人数はカバー

できている。令和6年能登半島地震においては、ハザードマップの周知が行き届いていなかったため、住民が指定避難所以外の様々な場所に避難したという問題があった。指定避難所は市職員の配置や物資の備蓄の観点から数が限られているため、地域や民間企業・施設が話し合っ決めて「届出避難所」を設置する制度を設けている。より近くの避難所を求めるニーズがあることは理解しており、相談いただければ仲介は可能である。

参加者

伏木コミュニティセンターが避難所に指定されているが、海に向かって避難することに疑問の声もある。

自治会連絡協議会とふしき防災士の会で災害時の避難のあるべき姿について、意見をとりまとめたうえで、地区全体で避難訓練を実施したいと考えている。

危機管理課

伏木コミュニティセンターは、津波避難ビルに指定されており、これは埠頭などで働く方々が短時間で高い建物へ避難することを想定したものである。津波が発生しても、3階以上は安全であると想定しているが、基本は海の反対側（高台）に向かって避難していただきたい。

参加者

令和6年能登半島地震の際に、防災無線で高台に逃げるよう指示があった。災害時、伏木駅前にいた人が伏木小学校まで逃げることは困難である。市からも勝興寺のような施設に緊急時の開放を働きかけてほしい。

参加者

勝興寺は地域から多くの寄付を受けているにもかかわらず、災害時に門戸を閉ざしたのは宗派の教えに反するのではないかと。市からも適切な運営を働きかけてほしい。また、伏木小学校や伏木高校、太田小学校は重要な避難場所であり、学校統廃合が進んでも維持してほしい。

参加者

令和6年能登半島地震の際には、勝興寺の両隣の寺が受け入れていた。地域ごとに避難場所をきちんと決めておくのが望ましい。

危機管理課

近くの安全な場所に避難したいというニーズは理解している。市が責任をもって開設する指定避難所以外に、各町内で取り決めた避難場所などもあると思う。地域で避難訓練などを検討する際には、相談に応じたい。

市長

勝興寺のように誰もが高台にあると認識している場所については、市として事前に協力を要請し、緊急時の避難場所として協定を結ぶような働きかけをすべきと感じた。

危機管理課

夜間に開設できる体制が取れない施設を避難所に指定していないため、課題を検討する。市が指定避難所とするには、夜間でも管理者が常駐し開放できることが前提となる。勝興寺がその条件を満たせるかも含め、協力要請が可能か確認したい。

参加者

大津波警報発令時は、避難所ではなく一刻も早く高台へ避難することが最も重要である。令和6年能登半島地震の教訓を踏まえ、住民一人ひとりが自助・共助の意識を持ち、日頃から避難経路を確認しておく必要がある。

参加者

これまで伏木駅周辺の住民は勝興寺を支えてきた。寺の判断もあるが、市から災害時の協力を依頼してほしい。

参加者

自治会連絡協議会と伏木防災士会で地域防災計画の策定を進めている。各町内で優先的に避難する場所について協議を進めており、市も協議に参加していただき、方向性を決めて訓練を行いたい。

参加者

避難場所を指定すると、指定された場所に逃げるのが優先され、命を守る行動に繋がらないため、最低でも2つ以上のルートを確認してほしい。町内毎に避難先を決めた地域防災計画を策定し、各自治会に共有したい。

各町内と勝興寺で災害時の協力について相談し、うまくいかない場合は市に協力を依頼する方が良いと考える。依頼の流れも地域防災計画に記載したいと考えている。

参加者

伏木地区の発展に貢献した藤井能三の功績を後世に伝えるため、万葉スポーツセンター体育館の名称を「藤井能三記念体育館」にしてほしい。

参加者

富山大学と東京科学大学の学生と地域住民で実施した「まちづくり懇談会」で復興やまちの活性化のアイデアをまとめて作成した「伏木の今と未来創造マップ」には、ウォーターフロントに休憩スペースを設置する提案があった。マップでは、小矢部川河口にベンチが描かれていたが、現状は中古車や太陽光パネルの設置場所になっており、景観も損なわれている。関係機関と交渉し、アイデアを活かすなど、ウォーターフロントの整備を進めてほしい。

3 意見交換

「高岡市人口ピラミッド」を基に、市長より説明の後、意見交換

参加者

(伏木小学生からのご意見) 小学校の水道の水が冷たくて手が洗えない。

参加者

地籍が曖昧で土地が売れず、個人で地籍調査を行うと費用は高額である。市中心部で地籍調査が行われているが、震災の状況を考慮して調査地域の優先順位を見直してほしい。

市長

地籍調査は法務局と市で進めているが、なかなか進んでいないのが現状である。すぐに対応するのは難しいが、ご指摘の点はもっともなので、今後検討していきたい。

参加者

小学校統合に係る改修工事でアスベストが発見された件について、なぜ早く生徒や保護

者に情報を公開しなかったのか。周辺住民への説明も自治会の班長任せにせず、周辺住民にしっかり説明してほしい。

市長

教育委員会と協議し、周辺住民の方に経緯やアスベストの安全な除去方法について説明する場を設けるなど、皆様の不安を少しでも取り除けるよう努めたい。

参加者

古府小学校の跡地について、市長の思いとは違う報道があり、「武道館を建設する」という話が広まっている。市長の真意をお聞かせ願いたい。

市長

新しい施設を建設するのではなく、既存の体育館を武道ができるように改修しようと考えている。県立武道館の廃止方針を受けた活用案であり、伏木地区の住民だけでなく、市民が集う施設にしたいと考えている。

参加者

若い女性の市外への転出が多い原因をどう考えているか。女性が暮らしやすい社会という視点が欠けているからではないか。

例えば、ふるさと納税のような形で、所得税や住民税の一部を出身地に自動的に納めるような仕組みを国に働きかけるべきではないか。

同窓会の案内でふるさと納税をPRするなど、県外へ出た人たちに協力をお願いするよう、少しずつでも取り組んでほしい。

市長

高岡で育ったこどもが都市部へ行き、戻ってこないという現状がある。例えば、奨学金で大学に通った学生が地元に戻り、10年以上居住した場合に奨学金を支援する制度などを検討している。また、県外から転入した若い夫婦に家賃を補助する制度を始める。税制は国の制度なので変えるのは容易ではないが、それだけ切羽詰まった状況であると認識し、努力していきたいです。